

Do CL Column

俳句との出会いから次の出会いへ

—相談室ベターデイ—

小木 晴代

h-ogis8doCL@tbz.t-com.ne.jp



俳句を始めて、日常生活にささやかな変化がでていると感じ、変わったことを書き出してみました。まず、外の世界に今まで以上に意識が向くこと、観察が丁寧になったこと、無関心でいたことにも目を向けるようになったこと、草花の名前を覚えようとしていること、季節を表す言葉（季語）を知るために歳時記と首引きになっていること、観察と言葉探しには相乗効果があることを知ったこと、俳句を趣味にしている人たちから誘いを受けることなどなど・・・。


カワセミが海浜公園の池の端にきていると聞き、何日も通ったときは、カワセミの動きだけでなく、ほかの鳥たち、樹木、池の中の様子、シャッターチャンスを狙っているカメラマンたちを見たり聞いたり、背にあたる陽を心地よいと感じたりと自分の観察に広がりがありました。

ジャコウアゲハの幼虫を見に行こうと誘ってくれた友人は、とにかく物知り、生き字引です。その蝶の成長の過程を丁寧に教えてくれました。蝶の名前は聞いてもすぐに忘れる私ですが、ジャコウの香りがするからと名前の由来を教えてもらい、覚えました。オスは真っ黒でレースのような羽をもつ優雅な蝶でした。幼虫は毒のあるウマスズ草を食べるそうです。保育園の塀の近くで、卵、幼虫、さなぎを観察していたら、通りがかりの人から何をしているのかと尋ねられました。おかしな老人と見えたようです。知識が増えると言葉探しの世界が広がります。すぐに一句とはいきませんが、実体験のたくわえが増えます。

ジャコウアゲハとの出会いにヒントを得て、先日、俳句サークルで、『そびえたつ防潮堤や夏の蝶』を披露しました。2年前に行った浄土ヶ浜の光景にショックを受けたことと夏の蝶で一句にしました。

もっと若いときに俳句に出会えたら今頃、ちょっとはましな句を作れていたかもしれませんが、俳句は私のそばを通り過ぎていました。レイノルズ先生の著書のどこかに「出会い」についての記述があります。いつ、「出会い」をキャッチするかわかりませんが、コロナ禍中に、俳句との出会いを逃さなかったのはラッキーでした。足腰が立たなくなっても、「おうち de 俳句」夏井いつき著—を参考に、しわになったシーツやふる場のカビで作句ができそうなことも楽しみです。

(千葉県千葉市インストラクター)

 [目次へ戻る](#)